

⑧明倫館

山口大学の前身。旧公設市場の地にあった山口講習堂は文久元年（1861）亀山東麓に移転。同3年山口移鎮に伴い山口明倫館と名を改め、藩の学問・教育の拠点となり、優れた人材を輩出しました。現在県立美術館があるこの地には文学寮が置かれました。

⑨兵学講

山口明倫館兵学寮。歩兵・騎兵・砲兵の三兵塾があり、大村益次郎が西洋兵学を講義しました。

⑩善生寺

浄土宗。かつて西久寺といい松の木町にあったといわれ、天正年間（1573～92）曼陀羅寺と改号、慶長年間（1596～1615）今市に移り善生寺に改め、明治3年向山の周慶寺跡地に移転しました。

⑪御客屋

山口移鎮に伴い他藩からの重要な使者等の応接・宿泊所として、慶応3年（1867）今道に山口客館が新築されました。明治5年山口第一小学（白石小学校の前身）となった後、明治9年山口地方裁判所が開庁、門は昭和42年頃常栄寺に移築されました。

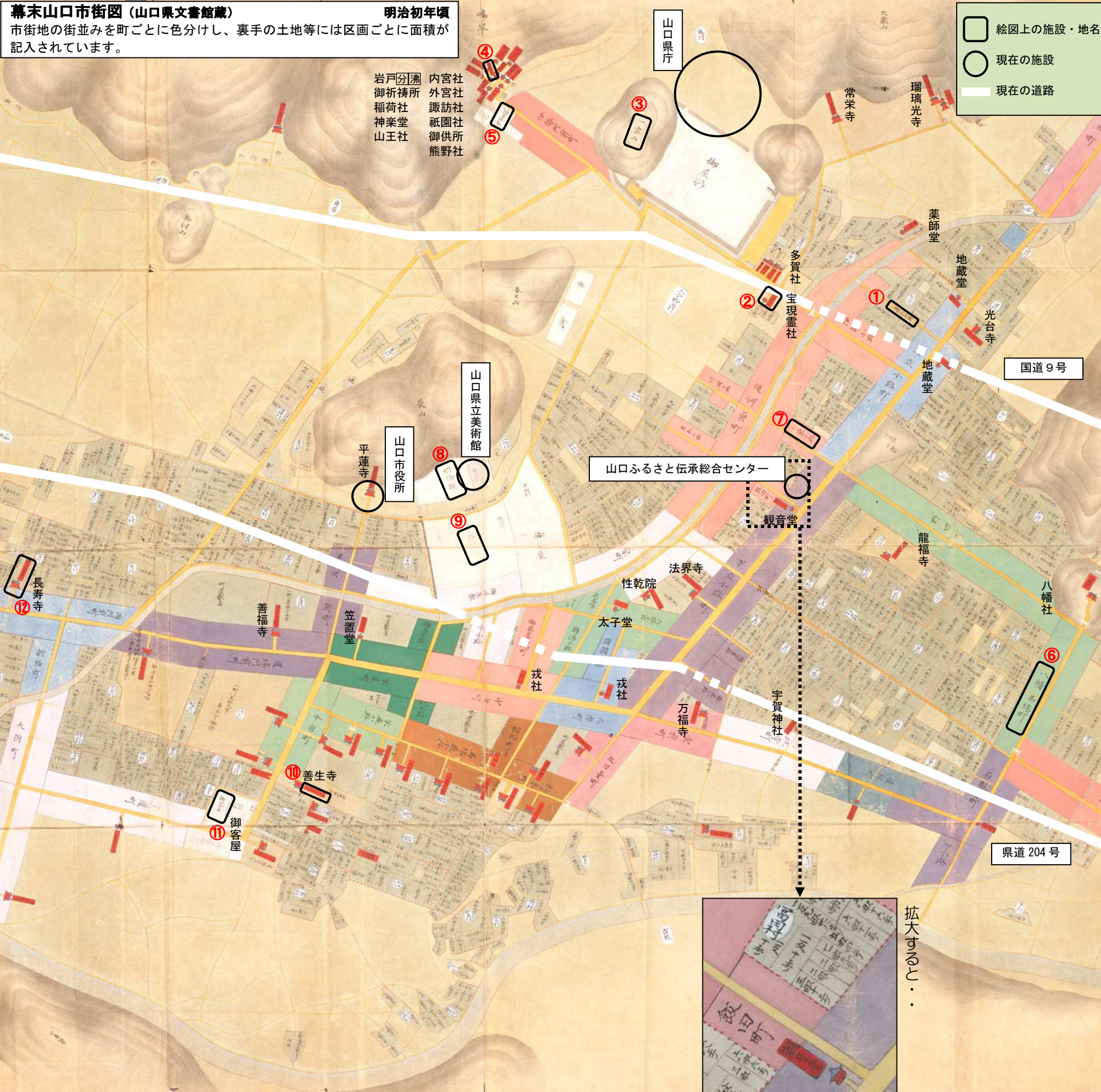
⑫長寿寺

浄土宗。かつて慈観堂といい、大永2年（1522）大内義興が重病に罹った折、平癒を祈願すると靈験あらたかにより、お堂を建立し長寿寺に改号。高杉晋作が挙兵し内訌戦が始まった際、慶応元年（1865）御楯隊の駒井政五郎らは長寿寺を本部に鴻城軍を結成、井上馨を総督としました。兵員増加により屯所は常栄寺（現洞春寺）に移転しました。

近世山口の町

大内時代の「山口四十八小路」を受け継いだ江戸時代の山口は（『防長風土注進案』では54町）、軒を連ねる街道筋が交わり、「向こう三軒両隣」——道をはさんだ両側を一つの町として、コミュニティを形成していました。

大市から道場門前にいたる4町では、道路は市が立つ場ともなり、間口の広い店舗も設けられていたようです。絵図には大市と中市に商売繁盛の神「えびす様」を祀る戎社がみられます。



①唐人小路

大内時代に外国館があったと伝えられます。幕末、一つ橋たもとにあった藩の養蚕局で、品川弥二郎らがひそかに錦の御旗を作らせました。

②宝現霊社

慶長10年（1605）毛利輝元が多賀社境内に大内義隆、公卿等を祀り創建。その後龍福寺境内に移転、文政11年（1828）この地に移りました。明治2年興隆寺境内から八坂神社そばに移転した東照宮社殿を、明治3年本殿として、築山神社と改称しました。市文化財指定される見込みです。

③一露山（丸山）

かつてここに時鐘があったようです。山口移鎮の際、御屋形の一角にあたるこの小山のふもとに、藩主毛利敬親が茶室露山堂を設け、討幕の密議をこらしました。廃藩後、露山堂は移築を経て明治24年香山公園に移されました。丸山は県庁舎新築にあたり昭和52年取り除かれ、跡地は県庁前庭として整備されました。

④熊野社

宝徳2年（1450）紀州より東山猿林の地に勧請（後にこの地は古熊野と呼ばれ、いつしか「古熊」に）、永正17年（1520）鴻ノ峰麓に遷されました。明治8年同じく大神宮境内にあった山王社とともに江崎へ遷されました。

⑤御用屋敷

大神宮門前、五十鈴川に沿って建てられた毛利元徳の屋敷・五十鈴御殿にあたります。隣に安子夫人（銀姫）の居室があり、慶応元年（1865）奥女中となった吉田松陰の妹・文（美和）が勤めていました。

⑥八幡馬場町

北の突き当たりは今八幡宮があり、馬場とはその前の広場のこと。赤十字病院東側の道路一帯。幕末、今八幡宮社務所は志士達の拠点となり、文久3年（1863）堀真五郎を総督として「八幡隊」を結成、四境戦争などで活躍しました。南端の石州街道との交差点付近に鳥居があり、道路拡幅に伴い今八幡宮石段踊り場に移設されました。

⑦石原小路

北側には幕末、諸隊会議所がありました。奇兵隊をはじめとする諸隊が藩保守派に対抗する中で、隊長達の急な集会にも便利な場所として設けられました。